

事例A：板書の視写が苦手な高学年の児童

♥計画

指導仮説	授業における個に応じた手だて
A：スケジュールが分からないと不安が大きいので不安感を取り除く支援が必要である。 B：動体視力や追視に弱さがあり、板書を視写することが難しいので支援が必要である。 C：自尊感情が低いので、自信や意欲が持てる支援が必要である。	A：学習の大まかな流れを事前に知らせておく。 B：絵や図、表を用いた分かりやすい板書にする。 C：個別に声かけをしたり、挙手したらすぐに指名をしたりする。

◆実施（指導案）

- ・単元 水溶液の性質
- ・本時の目標 ムラサキキャベツ試験紙を使って、色の変化から水溶液の仲間分けができる。
(自然事象についての知識・理解)
- ・本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点 (◎個に応じた手だて)	教材・教具等	評価 (評価方法)
導入	・今までの学習の振り返り ・本時のめあての確認	一斉	1. 水溶液が酸性・中性・アルカリ性のとき、リトマス紙の色の変化を確認する。 2. 本時のめあてをつかむ。	・色の変化が視覚的に捉えられるように図示する。	リトマス紙の色の変化図	
展開	・ムラサキキャベツ試験紙を使って、水溶液の色の変化を調べさせる。 ・色の変化を手がかりにして、水溶液を仲間に分けさせる。 ・仲間分けした結果や分かったことを発表させる。 ・⑦～⑩の水溶液が何であるかを知らせる。	グループ 個別 グループ 個別 一斉	3. ムラサキキャベツ試験紙に薄い塩酸・水酸化ナトリウム水溶液・水をつけて、色の変化を調べる。 4. ⑦(石鹼水) ⑧(レモン水) ⑨(酢) ⑩(重曹の水溶液) ⑪(食塩水)の水溶液をつけて、色の変化を調べる。 5. 実験結果から、それぞれの水溶液を酸性・中性・アルカリ性の3つの仲間に分け、分かったことをノートにまとめる。 6. 仲間分けした結果や分かったことを話し合う。 7. ⑦～⑩は何という水溶液であるかを知る。	・実験をしながら説明する。 ◎実験方法を十分理解できていない様子が見受けられれば、「①～をする、②～をする」と簡潔に実験方法を説明する。 ・薄い塩酸、薄い水酸化ナトリウム、食塩水、酢など、今までの学習で使用した水溶液や身近な水溶液で調べさせ、色の変化に興味をもって実験できるようにする。 ◎板書を視写する意欲がない場合、横や前で一緒にノートを書く。 ・各グループの実験の様子を観察し、必要に応じて助言・援助する。 ◎分かったことが書けていなければ、分かったことはなかったかを聞き、それをノートに書けるよう援助する。 ・板書を工夫し、実験結果と分かったことが整理できるようにする。 ◎分かったことが書けていれば、自信をもって発表できるよう言葉を掛ける。 ・実物を提示し、水溶液に溶かしたものが分かるようにする。	ムラサキキャベツ試験紙 薄い水酸化ナトリウム水溶液 薄い塩酸 水 石鹼水 レモン水 酢 重曹の水溶液 食塩水 ビーカー ガラス棒 トレイ 乾いた布 石鹼 レモン 酢 重曹 食塩水	ムラサキキャベツ試験紙を使って、色の変化から水溶液の仲間分けができています。 (知識・理解) (観察・ノート)
まとめ	・本時の振り返り ・次事の予告 ・実験の後片付け	一斉	8. 本時の学習内容を振り返る。 9. リトマス紙のかわりに身の回りの植物の汁を使って、酸性・中性・アルカリ性を調べることができることを知る。 10. 次時に「水溶液の性質」の学習のまとめをすることを知らせる。 11. 後片付けの仕方を知り、協力し合って、手際よく片付ける。	・実験結果の板書や図を活用してまとめる。 ◎他にもどんなもので調べられそうか言葉掛けをし、意欲をもって本時を振り返ることができるよう援助する。 ・ナスやブドウの実の皮やアサガオの花びらでも調べることができることを知らせる。 ・後片付けの仕方を指示し、点検と確認をする。	ナスやブドウの実の皮	

◆評価

A：スケジュールが分かり、意欲を持ってないという態度を取らず、落ち着いて授業にのぞめた。 B：絵や図、表を用いて分かりやすい板書にしたので、ノートに視写することができた。 C：みんなの前で発表ができ、自信を持てた。
